



図 1

推進支援講座 第一部の講義「色覚の多様性とカラーユニバーサルデザイン CUD」開始直後の様子。



図 2

推進支援講座 第二部のワーク

見分けやすい5色配色をグループで考えるワーク。職場体験学習で参加した市内中学生も熱心に取り組んでいた。第一部の講義で得た知識と、色弱模擬フィルタ(バリエントール)や色のシミュレータアプリを活用しながらの作業をしていく。色弱当事者の講師(左手前)が傍らで、見分けにくい色の組み合わせを指すと隣席の参加者(右手前)も色のシミュレータで確認していた。



図 3

推進支援講座 第一部の講義

講義の途中に色弱当事者の講師の談話が入る。シミュレーション画像のスライドを見ながら、自身の見え方や困る話を直接聞くことで、当事者理解を深めるプログラムとなっている。



図 4

推進支援講座 第二部のワーク

各部署で作成した広報誌、チラシや地図等をカラーユニバーサルデザインの視点から見直し、気づきを共有するワーク。ハザードマップをチェックする様子。氾濫想定区域の赤と道路のグレーの色が似ていて情報が伝わりにくいことに気づいた。



図 5
推進支援講座 第一部の講義

講義の途中で色弱模擬フィルタ(バリアントール)を掛けて 50 色の色紙を5分類する色弱模擬体験をする。その後色弱当事者の講師が実際に5分類した結果を参加者とシェアする。当事者の講師から「どこか変なところがありますか?」と尋ねると、「グレーの中にピンクが混じっている」と答えるなど、見え方の違いを理解し合いながら、色弱者が混同しやすい色を確認できるプログラムになっている。



図 6
推進支援講座 第二部のワーク

見分けやすい5色配色をグループで考えるワーク。参加者が色紙で示しながら5色を選んだ理由や配色のイメージを伝える発表風景。



図 7
推進支援講座 第一部の講義

講義の途中で色弱模擬フィルタ(バリエントール)を掛けて50色の色紙を5分類する色弱模擬体験をする様子。



図 8
推進支援講座 第二部のワーク

公園緑地課の希望で、チェック対象を赤塚山公園パンフレットとし、全体ワークを行った。地図やバス路線など多くの色が含まれており、来年度予定のリニューアルに活かされる、より実践的なワークとして意味のあるものになった。



図 9
推進支援講座 第二部のワーク

ワーク担当講師から説明を受ける様子。オンライン参加者に共有されている。

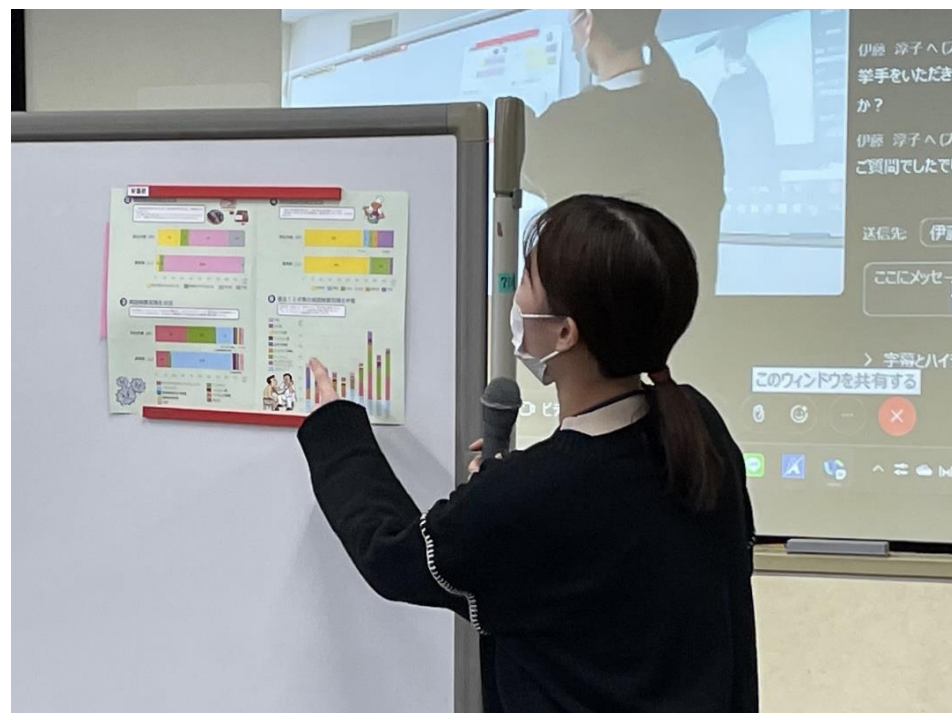


図 10
推進支援講座 第二部のワーク

各部署で作成した広報誌、チラシや地図等をカラーユニバーサルデザインの視点から見直し、気づきを共有するワーク。まとめとして、各グループの代表が気づきや改善点を発表した。